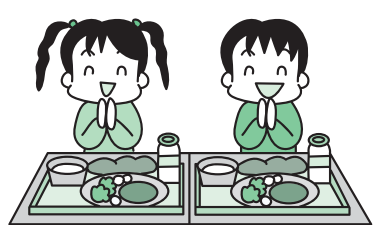


給食費の滞納について

しばさき 柴崎
しげお 重雄

問 学校給食は学校教育の一つとして児童・生徒が食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につける上で重要である。そしてその費用は学校給食法の規定で保護者が負担することとなっている。しかし、保護者が給食費を未納している問題が起きている。そこで、市内の小・中学校の未納状況と対応策を聞きたい。

答 深谷市の給食費は小学校が月額3800円（1食当たり220円）、中学校が月額4500円（1食当たり270円）となっており、これを食料費として各学校は、地場野菜を献立に取り入れ、工夫を凝らした給食運営を行っている。給食費の未納については、未納者への通知、電話連絡、家庭訪問などの対応策をとり、99%以上の収納率をあげている。



る。今後も未納を増やさないように努めたい。

タイガーマスク運動について

問 「伊達直人」を名乗る人物から児童相談所へランドセルが送られてから全国各地の施設に寄附行為が相次いでいる寄附者の名前が漫画タイガーマスクの主人公と同じで同様の寄附行為をしていることから、タイガーマスク運動と呼ばれるが、深谷市ではどのような状況か。

答 市では、市役所に現金が2件、市内児童養護施設に現金が1件、タオル多数1件である。この善意の活動が一過性のものでなく、一定のルールのもと長く続く活動として定着することを期待している。

火災予防対策は進んでいるか

しばさき 馬場
しげる 茂



住宅用火災警報器

問 住宅用火災警報器の設置状況はどうなっているか。

答 深谷市の設置状況は、平成22年のアンケート調査で64.7%。なお、全国では63.6%、埼玉県では62.9%の設置率となっている。設置率100%に向けて、深谷市消防団とも連携を図り、深谷地区防火安全協会、深谷市消防設備協会と協力しながら、設置率を高めていきたい。

問 農産物のPR活動を、市場に向いて定期的に継続していく考えはあるか。

答 実施時期をはじめ、PRする作目や、実施場所などを体系的に整理し、一定年度継続的に実施したい。

問 鳥インフルエンザ対策は万全か。

答 市内農家22戸に対し、飼養羽数に応じた量の殺菌消毒薬の無償配付を実施した。啓発資料を作成し、郵送にて配付した。

問 新規就農者に対する支援策は？

答 新規就農相談窓口を設け随時相談に応じ、産業祭など年2回、休日においても「休日就農相談会」を実施している。農業委員会では「深谷市ホームページ・アグリハローワーク」により、情報提供を行っている。国や県の支援策については「経営体育成支援事業」や「農業機械等のリース導入支援事業」等がある。新規就農者の状況は、平成21年度は28名、平成23年2月末現在29名を把握している。

住宅リフォーム助成制度の確立を

しみず 清水
むつみ 睦

問 景気の悪化により市内業者の仕事が減少している。景気回復を図るため、助成額の数十倍の経済効果が他の自治体でも実証されている。市内業者に特定した住宅リフォーム助成制度を確立すべきではないか。

答 新たな助成制度は考えていないが、住宅改修制度を市内業者に限定できるかどうか研究する。

中学生通院の無料化を

問 子育て支援を推進する立場から、子ども医療費支給事業を中学卒業まで、通院を無料にするよう拡充できないか。

答 厳しい財政の中、拡充は難しいと考える。

国民健康保険税の引き下げを

問 失業者が多いなどの市民の暮らしが困難な現状を考慮して、国保税を一世帯1万円引き下げできないか。

答 国保財源は厳しく、税率は県の平均と比較しても低い水準にあり、引き下げは考えていない。

高齢者の医療費を無料に

問 高齢者は老年者控除の廃止や年金控除の縮減、後期高齢者医療の導入などにより、その生活は脅かされている。高齢者の医療費を無料にする自治体もある。75歳以上の高齢者の医療費を無料化できないか。

答 後期高齢者医療制度は国の制度であり、市の財政も厳しいことから、高齢者の医療費無料化は考えていない。

社会貢献と健康増進の一石二鳥のシルバー人材センター

うたむら 宇多村
はるえ 春恵

問 岡部、川本、花園地区の出先事務所を一旦所に統廃合の実施予定と聞かすが、会員の拠点施設はどうなるのか。

答 深谷市シルバー人材センターでは、生きがいや健康増進及び経済的理由のために入会する会員は増加している。しかし、低迷の続く経済状況の影響から受託事業の数は減少しており、会員の就業機会も厳しいものとなっている。改革に向けた部会の課題の一つとして検討されている。自主・自立の実現に向け指導・助言をしていく。

問 独自事業（自転車サイクル）の継続はあるのか。

答 継続実施をすると同っている。現在岡部事務所を作業場所として事業を行っているが、作業場所についてもシルバー人材センターで検討して

入札に談合はないのか

いまむら 今村
さんじ 三治

問 談合を防止するために、入札時に入札業者同士がわからないようにする工夫はないのか。また、談合ができない仕組みを作ることが大切だと思うが、何か方法を考えているのか。

答 本市においては、談合防止対策として、指名した業者が顔を合わせることはないように、個別に現場説明会の時間をずらして1者ずつ行っている。なお、来年度より総務課引継ぎ案件については、原則、すべて電子入札の対象とすることに伴い、業者が来庁して行う現場説明会は、廃止となる予定である。これにより、指名した業者同士は、入札前に顔を合わせる機会がなくなり、より公正・公平な競争入札が実施できるようになるものと考えている。



シルバー人材センター

一歩ずつ進めよう砂ぼこり対策

問 レッドロビンの植栽の延長拡大は期待できるのか。

答 平成19年度より深谷市砂ぼこり対策協議会を設置し、取り組んできたが、植栽については市で実施する。平成21年度は5戸の農家で236メートル植栽。平成22年度は204メートル。平成23年度は230メートルを予定。5年計画を予定し、緑肥作物種子の配布も実施。「農地の優良土壌は農業者自らが守る」ということが大切であり、地域住民に対しても砂ぼこりを地域全体の問題として理解してもらえよう、引き続き啓発に努めていく。



「議案あれこれ」一般質問ってなあに?」...議案質疑とは別に議員が市の行政全般にわたり執行部側に対し自由に質問できるものです。3月議会では18人の議員が質問を予定していました。>